6 仮想空間を楽しむ旅

～体験の共有、未知の経験～

毛利 康秀
MOHRI Yasuhide
静岡英和学院大学／教授

自宅から仮想的な旅行を楽しむバーチャルツーリズムは、コロナ禍をきっかけに大きな注目を集め、今後も様々なスタイルの楽しみ方が定着していくと予想されています。ICT技術の発達により、気軽で予想もしない仮想の旅、「移動しない旅」はこれからどのように進むのでしょうか？

バーチャルツーリズムとは何か？

コロナ禍は、私たちの社会生活に大きな影響を及ぼしました。移動が制限され、人と人の接触を避ける生活が強いられたのは記憶に新しいところです。特に、人の移動を前提とする観光産業は、壊滅的な打撃を受けました。

そのような状況の中で、「バーチャルツーリズム（仮想観光）」が注目を集めることになりました。バーチャルツーリズムとは、『ICT技術を活用して実在する観光地へ仮想的に移動し、主にコミュニケーションを通して観光経験が得られる形態の観光』と定義することが可能です。自宅からパソコンやスマホを活用して楽しめるオンラインツアーは、バーチャルツーリズムの一形態であると言えます。

コロナ禍でオンラインツアーが広がったのは、移動できなくなっても観光が楽しめるように、観光ガイドの仕事もなくらないように、という難題をクリアするための苦肉の策という一面がありましたが、オンラインツアーならではの魅力が発掘されて一定の利用者を獲得できただけではなく、新たな需要を作り出すことにも成功し、コロナ禍が終息した後にも色々な形態に分化しながら残り続けていくと予想されています。

関連するキーワードとして「フィクショナルツーリズム（虚構観光）」があります。これは『ICT技術を活用して実在しない場所へ仮想的に移動し、主に非日常の体験から観光経験が得られる形態の観光』と定義することが可能です。将来は、バーチャルツーリズムとフィクショナルツーリズムは融合する形で進化していくものと予想されています。

では、現在行われているバーチャルツーリズムには何があるのか、いかなる特徴を持っているのか、将来はどのように進化していくのかについて見ていくことにしましょう。

「観光経験の共有」がオンラインツアーの魅力

図1は旅行業大手のエイチ・アイ・エス（HIS）が提供しているオンラインツアーの説明スライドです。

図1　オンラインツアーの特色（HIS提供）　©HIS Co., Ltd.

写真1　オンラインツアーの画面（HIS提供）　©HIS Co., Ltd.
A：世界一周ライブツアーのタイトル画面　ハワイ、ケニア、インド、トルコ、ラスベガスにオーストラリアを回るツアーで大人気
B：ハワイで現地から挨拶するスタッフ　実際に現地を歩いて案内してくれる

写真2　コトバスツアーの画面（琴平バス提供）
©Kotohira Bus Co., Ltd.
A：コトバス　オンラインバスツアーのタイトル画面
B：ツアー冒頭の様子　プランナーさんの挨拶
C：中野うどん学校琴平校の様子　ライブ感が人気で、リピーターも続出

HISはコロナ禍が始まった直後からオンラインツアーを始めたことで知られ、これまでに累計15,000コース以上が提供され、総勢30万人以上が体験しています（2024年2月時点）。

図1にある「世界周遊各国街歩き」は初期から提供されているタイプで、このような世界の複数都市を巡る周遊ツアーは現在も人気です。短時間での世界一周は現実では不可能なので、オンラインツアーでしか体験できない特色になります。写真1は世界一周ライブツアーのタイトル画面（A）と実際の画像（B）で、ハワイを“訪れる”と観光ガイドさんが現地を歩いて中継しながら案内をしてくれます。他には、映画やドラマなどの舞台やロケ地を観光する「聖地巡礼」、ライブ中継でショッピングができる「ライブコマース」、異業種・業界とコラボした「外部コラボ」、旅を楽しむための学びを深められる「教養講座」などが提供され、楽しみ方の幅が広がっています。

自宅からパソコンやスマホの画面を見ているだけで「旅行をした」と言えるの？と疑問に思う人がいるかもしれません。この疑問を解く鍵は「体験」です。オンラインツアーの魅力は「体験の共有」にあります。現地の風景をライブで見て、観光ガイドさんとコミュニケーションがとれて、それを一緒に参加した人と共有することで、一種の「観光経験」が得られてしまうのです。

体験を重視したオンラインツアーを紹介しましょう。写真2は香川県に拠点がある琴平バスが提供するオンラインツアーのタイトル画面（A）、バス“車内”の様子（B）、うどん学校でのスナップ（C）です。琴平バスもコロナ禍の初期からオンラインのバスツアーを提供して人気を博しています。うどん体験ツアーに申し込むと、自宅には事前に「旅のしおり」や

写真3　オンラインツアーの画面（そふと研究室提供）　©そふと研究室
A：生産者が紅茶を淹れるところを中継している様子　画面を見ながら参加者も同時にお茶を淹れ、体験を共有
B：紅茶で乾杯する様子　オンライン上でも、生産者との交流、参加者同士での交流ができることが、このツアーの魅力

「うどんセット」などが届き、旅への期待感が膨らみます。ツアー当日、バスに“乗り込む”とプランナーさんが登場し、現地まで案内してくれます。うどん学校に“入学”して、うどん作りを学びながら自宅に届いたうどんを味うと、本当に旅行した気分が味わえます。スタッフさんと過ごした経験が印象に残り、スタッフさんのファンにもなって、後日実際に香川県を訪れる人も多いそうです。仮想的な旅から現実の旅へつながっていく好例と言えます。

体験＋交流を重視したオンラインツアーを見てみましょう。写真3は、静岡で特色あるツアーを提供する「そふと研究室」が催行した「Zoomでしずおかお茶ツーリズム」の中継画面（A）、紅茶で乾杯する様子（B）です。お茶の世界は奥が深く、美味しいお茶（今回は紅茶）を味わえる経験を作り手（茶農家）と参加者が共有できると大いに盛り上がります。体験重視型のツアーでは作り手と参加者や参加者同士の交流も魅力の一つになりますが、それはオンラインでも変わりません。

観光経験における「体験の共有」は、意外に大きな比重を占めています。たとえば、修学旅行の思い出は、「どこへ行ったか」と同じくらい「誰と行ったか」「誰と一緒に楽しんだか」が大切な記憶になっていることと思います。たとえ現地に行けなくても、ライブで「観光経験を共有できる」ことを知らしめたところにオンラインツアーの意義を見い出せます。ここが、旅行番組や旅行動画、ストリートビューなどとは異なる、オンラインツアーならではの魅力の一つであると言えます。

バーチャルツーリズムの未来はどうなるか？

ここまで紹介してきたオンラインツアーは、クラウド型のビデオチャットサービスであるZoomのシステムが活用されています。インターネット環境と端末があれば気軽に参加できるので、Zoomを活用したオンラインツアーは、バーチャルツーリズムの簡便な一形態であると言えます。

では、これからのバーチャルツーリズムはどのように進化していくのでしょうか？

まずは「移動する旅行」にはない「価値」が提供できるかどうかにかかっています。短時間での世界一周や、実際に行くことが難しい秘境や危険な場所の探索は、オンラインツアーの方に強みがある分野です。図1にあったように、オンラインでの「宇宙体験」も身近なものになっていくかもしれません。これからも多種多様なオンラインツアーが企画されていくことが期待されます。

新しい機材の開発は、オンラインツアーの楽しみの幅を広げるでしょう。図2は、子ども達が外国のサファリパークにある観光ロボットを操作してエサやりを体験しているイメージです。外国にも気軽に行けて友達と一緒に体験できることがポイントで、入院して外出できない子どもも一緒に楽しめます。そのサファリパークへ実際に行ってみたいと思えれば、将来の楽しみにもなるでしょう。

さらなる技術の開発は、オンラインツアーの楽しみを深く掘り下げるとともに、バーチャルツーリズムとフィクショナルツーリズムの融合ももたらすでしょう。図3は、観光ドローンを操作して空中散歩を楽しみ、そのまま異世界散歩も楽しむイメージです。ヘッドセット型コンピュータを装着すれば、本当に空中を散歩しているかのような経験ができ、そのまま異世界に飛び込めば、日常生活では経験できない未知なる体験が可能です。

図2　バーチャルツーリズムの未来図（1）
観光ロボットを操作してエサやりを体験しているイメージ

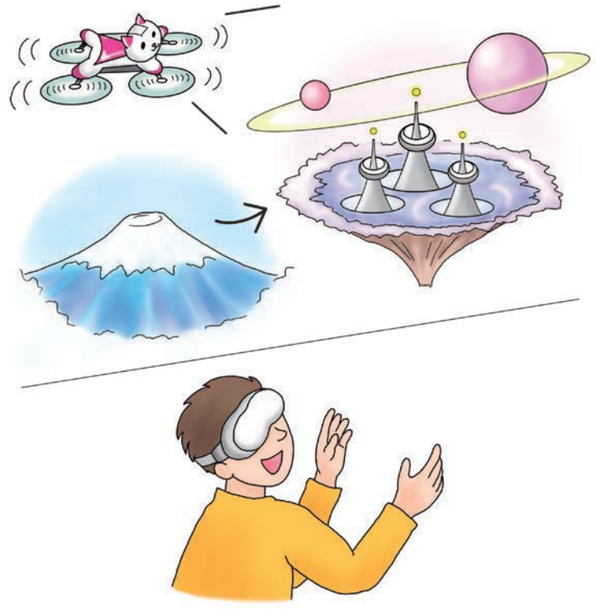

図3　バーチャルツーリズムの未来図（2）
観光ドローンを操作して空中散歩を楽しみ、そのまま異世界散歩も楽しむイメージ
（フィクショナルツーリズムと融合）

Zoomを活用したオンラインツアーでも、ガイドさんにリクエストを出して現地の見たい景色を見せてもらうことはできますが、観光ロボット＆ドローンを利用すれば自分の意思で行きたいところに行くことができます。もちろん、技術的・制度的な問題点をクリアしていく必要はありますが、比較的近い未来には実現できるのではないかと期待されています。

その頃になると、実在しない場所への旅行、すなわちフィクショナルツーリズムも進化しているでしょう。これまでも 映画やゲームなどで 架空の異世界を楽しむことはできますが、これからはそれらの異世界に体感的に“飛び込む”ことはもちろん、友人と一緒にその世界を探検する体験が共有できたりゲームの世界よりもリアルに仲間との冒険ができたりするような日が来るのも遠くないかもしれません。

私たちが高齢となり、自由に出歩けなくなった時こそ、バーチャルツーリズム・フィクショナルツーリズムは真価を発揮してくれるかもしれません。もう二度と行けないと思っていた場所を、再び“訪れる”ことができるからです。子どもの頃に親に連れられて行った場所、修学旅行で行った場所、新婚旅行で行った場所、子どもを連れて行った場所…。もちろん、まだ行ったことのない場所にも行けますし、未知なる体験だってできます。バーチャルツーリズム・フィクショナルツーリズムは、私たちに最後まで寄り添い、楽しませてくれる観光になることでしょう。

<資料提供>
1）HISオンライン体験ツアー　https://www.his-j.com/oe/
2）琴平バスオンラインバスツアー　https://www.kotobus-tour.jp/tour/online/
3）そふと研究室　https://soft-labo.net/
4）イラスト　ヤジマデザイン